

2023年度第7回NPO法人共同保存図書館・多摩理事会

1 日時：2024年2月27日（水）午後8時00分から

2 方法：ZOOMアプリを媒介にしての遠隔会議

3 議決権のある理事：9名

出席者：座間直壯、清田義昭、雨谷逸枝、小池信彦、齊藤誠一、田中ヒロ、中川恭一、堀渡

欠席者：保坂一房

(1) 第1号議案 会員の動向および年度会計の現状について

【報告】

・2月27日（本日）現在

・正会員：個人80名 2団体 賛助会員：個人28名 2団体 計：個人108名 4団体
（合計112名・団体）（前回と変更なし）

※会費未納の会員が13名おり「会費納入のお願い」文書を2/16に送った。その後、入金が続いているが、入金と同時に「本年度限りで退会」の意志を示された方が1名あり。

(2) 第2号議案 令和5年度東京都多摩地域公立図書館大会の取り組みの結果について

【報告】

・東京都市町村立図書館長協議会（以下、「館長会」という）が主催する令和5年度多摩地域公立図書館大会が、図書館員や市民が参加して、2月6～8日に東村山市立中央公民館で開催された。7日午後に行われた第4分科会は図書館サービス研究会が担当した枠だが、「市町村立図書館におけるTAMALAS活用の可能性」のテーマで、多摩デポ理事の中川と、（株）カーリルの吉本龍司代表が講師依頼され、発表した。

・中川は、経緯を知らない職員や市民も参加する会なので、2001年以降の多摩地域の図書館での除籍資料の取り扱いの経緯と多摩デポ発足の経過から説明し、TAMALASシステムと、その現場への普及・浸透状況について説明した。

・東京都立中央図書館での「あり方検討委員会」以後の大量除籍の話から始め、「館長会」が大量除籍の撤回を求めたがかなわず、町田市立図書館が都立図書館の5万冊の除籍資料を引き受けたこと。その後の「館長会」での扱いの検討、多摩地域で希少なタイトルは2冊まで分担保存する方針が共有されていったこと。各市職員とボランティアが集まったの現物処理、未所蔵資料は各市に割り当てて保存するための「保存シール」貼付。こうして多摩地域での共同保存を進めてきたが、近年になってシール貼付資料も実用書については各市判断での除籍を認めた経緯、新たな除籍資料ガイドラインの紹介など、多摩地域の図書館の共同保存の20年間を振り返った。

・TAMALASについては、個別検索システムは多摩地域で除籍作業の際に十分に活用されているが、一括処理システムは3分の1の自治体しかID発行がなく、活用はまだ道半ば

であることを指摘した。

- ・一括処理システムは、府中市の自動出納書庫の約4～50万冊の蔵書の点検に使われたように、とても大規模な作業もできるが、書架4段分、150冊程度の点検にも有効な小回りが利く手段であることを会場で実演した。中川の個人蔵の蒸気機関車の本150点のリストのデータを一括処理システムにかけ、結果が出るのに要した時間は9分。活用の幅は広いだろうことを紹介した。講演は多摩デポ実践講座（第4回）を兼ねた。
- ・講演の締めくくりには、本来は都内全体でのリアルな共同保存体制作りを目指すべきなので、「館長会」と多摩デポは連携し、都立図書館を巻き込んで都内全体の資料保存の考えを打ち出す方向に向かうべきことも発言した。
- ・吉本氏からは「A I時代の資料保存を考える／TAMALASの可能性」と題して、多摩デポとの連携協定を結んだ経過、TAMALASができるまで、TAMALASの仕組み、生成A Iと公共図書館、ユーザーの図書館への要求の変化や新しい課題、新たな「図書館の自由」の問題、最後にA I時代の資料保存について、などの発表があった。
- ・来場者は約50名、多摩デポ理事、事務局員は4名が参加、質疑応答を含め2時間だった（来場者アンケートは集計中）。

【討議】

- ・参加した感想だが、かつての都立図書館の動きやその後の多摩デポの関わりがよく整理されていた。多摩デポが今日あるのも、講演で振り返ったような動きがあったから。
- ・都立図書館との対話の問題が、今後の活動を大きく左右するものになるのではないか。

(3) 第3号議案 第42回多摩デポ講座の実施について

【報告】

- ・3月8日（金）に、第42回多摩デポ講座として、資料保存に力を注ぐ港区芝の二つの図書館の見学会を開催する。
- ・午前10時にJR浜松町駅北口に集合し、午前は旧大橋図書館蔵書を引き継いで公開している三康図書館、午後には昨年閉館した自動車図書館の蔵書を引き取り、コレクションとして組み入れて公開したB I Cライブラリを見学し、案内してもらう。両館とも興味深い活動を続けており、見学の受入れや情報発信にも熱心である。
- ・「定員15人、会員および多摩地域の図書館職員優先（先着順）」、締切2月25日（日）として参加者を募集した。しかし図書館からの応募は1名、会員・賛助会員の応募は2名。年度末の時期でもあり、職員は職務免除や出張扱いでは出にくいかもしれないが、反応は少なかった。理事、事務局は6名が参加予定（合計9人）。

【討議】

- ・行けばいろんなことが見えるのではないかと思う、応募者と共に学んできたい。

(4) 第4号議案 府中市立図書館の蔵書目録へのISBN遡及入力事業の進捗状況について

【報告】

- ・府中市の児童書のISBN遡及入力は、昨年8月から準備を進め、(株)カーリルで機械同定(推定)された830件のISBNデータの検証作業を、事務局員・ボランティアに行ってもらった。結果は11月下旬には集約できた。
- ・作業は二人でペアを組んで行ってもらい、その結果を齊藤理事に集め、堀理事とともに再点検、追加説明の入力、表現の統一などを行って、2月10日に府中市立図書館の担当者へ送付した。担当者からは「ISBNの推定とともに、書誌統合すべき書誌や追加入力の方がいい情報など、分かりやすい。指摘された書誌割れ等を確認後、遡及入力に掛かりたい。引き続きよろしく」との返信をもらった。
- ・(株)カーリルにも同じデータを送り、確認をしてもらっている。
- ・作業に関わったボランティア10名に結果を報告し、作業の感想や改善点等の意見交換、機械同定全般に関する意見などを聞くことが宿題になっており、必ず行いたい。
- ・地域資料、児童書と続けた府中市蔵書のISBNの推定・検証作業だが、一般書(除籍対象としない9類の資料でISBN未入力資料は約6,200件)が次に残っており、同市の担当者と調整しながら対応を考えていきたい。
- ・ISBNが同定できたのは65.4%だが、目録データが書誌割れしていたのが15.8%あった。これは機械的には同定できたともいえる。その他、誤同定と思われるのは11.8%。一部誤同定というのは、機械推定で異なる2つのISBNがヒットし、検証したら、そのうち1つはヒットしていたケースで2.2%あった。TAMALASヒットせず、が4.8%あった。
- ・この作業を通じて得た機械同定の誤り等の問題を、カーリルとの共同研究定例会で議題とし、機械同定の精度をさらに高めていく必要がある。延期したカーリルとの定例会を3月上旬には設定したい。

【討議】

- ・児童書は、図書館では汚破損等が理由での買い直しを、時期をずらして何度も行なう。それで書誌割れが起きやすかったのではないか。まだMARCが導入されていない、目録が手書きの時期だったことも関係があるのか。一般書では、そういうことは少ないのではないか。
- ・二人の作業の結果を集約した後でも「報告」に仕上げるには、表現の統一とか追加説明を書くとか、さらに判断が必要だったとか、とても手間がかかった。地域資料の時にはこんなブレはなかったのに、という感じ、それはすごく予想外だった。
- ・検証の結果は、機械同定で実質80%以上の精度ということだが、カーリルの当初の想定はどの程度なのか、予想より上なのか下なのか。機械同定の精度をさらに高めるには、具体的にどのような方法が考えられるのか、聞いてみたい。
- ・3月の定例会では、そのへんまでカーリルの見解を用意してもらえるか。できれば、そのへんを確認してから開いた方がいいと思う。
- ・国会図書館のMARCで、漢字の表記が違う、読みが違う、ページ数が違うなど、頻度

は少ないがいくつか間違いを発見した。国会図書館のデータも、点拠とするにはなかなか難しいというのが見えてきた。

- ・他の図書館がこの事業に関心を持たないかと期待して『多摩デポ通信』で詳しく説明してきたが、今のところ、他の図書館から取材が来るとか、「うちもやってみたい」という話が来ないのが残念。府中市のあとでいいから、広がっていくといいなと思う。

(5) 第5号議案 第1回多摩地域ライブラリアン講座の進捗状況について

【報告】

- ・オンデマンド講義に続き、1月22日と29日にオンライン（ZOOM）講義の日を設けた。この日には、講師の追加講義と、受講者とアドバイザーが班に分かれて行ったワークショップで内容を深めてきた、各受講者の事業企画の発表を行った。
- ・持ち時間7分の制限のため圧縮に苦労していたが、多くの受講者が、属する図書館のサービスの現状と利用の状況を踏まえた事業企画を考え、発表した。
- ・1人の受講者（新卒の入職者）は講義レポートからまだ未提出だが、締切日を猶予して現在取り組んでいる。
- ・また全員が、3月1日（金）提出締切の4,000字程度の修了レポートを執筆中。修了レポートは提出されたら、審査員が採点しコメントを書いて戻していくこともやりたい。
- ・修了レポートを提出し審査に合格することを前提に、修了式を3月25日（月）の15時～17時、立川市中央図書館会議室で行うことを予定しており、受講者と対面で交流を図れる予定である。理事にも参加していただきたい。
- ・また、外部講師、講座事務担当者への謝金の支払い等の決算事務を進めている。
- ・また、受講者からのアンケートの結果が出たらお伝えする予定。
- ・初めての事業なので、理事会としてこの講座の評価や総括を行い、来年度はどうするか検討をしていく必要がある。どうでしょうか。

【討議】

- ・12人定員で募集したが、応募は10人だった。積極的に誘うべきだったと反省はある。多摩デポが実施することは各自治体にはPRできたとは思う。準備期間、講師や企画の発表、募集の締切という段取りを、ゆとりをもって行なえる時間が必要。
- ・直営図書館の職員で、公費参加の受講者はいなかった。多くは自費で、自分のブラッシュアップをしたい人が参加したのではないか。
- ・参加者に聞くと、あるベテランは今一度、図書館の仕事を確認したいんだと言っていた、また入職したての新人と思っていたら実は社会人経験が結構長い人だった。2人とも自己研鑽したいとの動機があったようだ。次回は、今回の内容を基本に考えることになるだろうが、今回の受講者の感想を参考にして企画を替えることも必要か。
- ・私は元都立図書館の職員だが、さまざまな企画案を聞いていると、市町村立の方が自分の発想を出していけるんだな、都立の人は頭が硬直化しているというか、予算や前例に

縛られて、やりたくてもやれないところがあるように思った。

- ・会計的には、理事、事務局員、会員等が講師をする場合は講師料無料でやってもらって、本当に有難かった。5000 円という受講料で豊富なプログラムを組めたのはそんな協力があつたからこそ。事務担当の方も本当によくやってくれた。
- ・講師をしたので、私は現役の方と触れ合える機会が多くて有意義だった。現役世代と交流できたのは成果の一つだが、参加者同士、現役同士の交流はオンラインの講座だけではなかなか生まれない。多摩デポの活動になるべく参加してもらいたいというのも隠れた狙いだが、それにはまだ至っていない。修了式の日には懇親会がある。受講生同士のつながりを生む機会にもなってほしい。
- ・受講生がいつか、次の講師になってくれたらいい。図書館で実現したい事業の企画は、今後、企画が実際に実現したあとで報告会を開いたら面白いのではないか。
- ・講座の成果は受講生には残るから、今後、役に立つのではないか。
- ・皆の話をまとめると、ライブラリアン講座を実施してよかった、来年度の実施を考えたい、という方向ではないか。来年度、無理のない事業計画を組めればよいのだが。
- ・直営図書館の職員はみな私費参加。指定管理の職員はみな会社の負担のようだった。指定管理の人たちは図書館の新しい研修の方法に慣れているような印象だった。
- ・これからの職員を育てるには、直営図書館でも研修の機会をできるだけ多く持つことが必要だ。公費で参加できるようにしてもらうのは政策的にも必要かと感じた。
- ・多摩という狭い地域なので、参加者を集めるのはなかなか厳しいと思う。

(6) 第6号議案 2023年度事業全体の進捗状況について

【報告】

- ・理事会は定例的には2か月に一度なので、おおまかに1年間を振り返ってどうだったかを報告して、理事のご意見を聞きたい。
- ・コロナ禍の制約を経て、多摩デポは活動を再開していく年度だった。
- ・見学会ばかりだったが多摩デポ講座、図書館大会での講演、カーリルとの共同研究、その具体的な実践としての図書館蔵書へのISBN付与などを行ってきた。件数は少なかったが図書館資料の里親探し事業は継続し、仲介していくことができた。多摩地域ライブラリアン講座という、地域の職員を育成する新規事業を始めた。
- ・多摩デポ講座の応募者やライブラリアン講座の受講者は人数的にはもう一つだった。
- ・しかし都立中央図書館の書庫や保存の実情を聞く見学会では、この間見えなかった都立図書館の保存＝除籍の現状が見えてきた。都立と対話していく糸口となるだろう。ライブラリアン講座では、熱心な現役職員の手ごたえに触れ、資料保存の課題を含めて話をしていくことができた。
- ・「図書館大会」では分科会の企画を任された。この間、多摩デポが考え行ってきたことを展開することができた。

- ・それができた分だけ、本日の第2号議案の資料の最後に、「各自治体の除籍・保存処理の先にあるのは、東京都全体でのリアルな共同保存体制作りであり、「館長会」や図書館サービス研究会への働きかけから、都立図書館と同じテーブルで検討する機会を設ける機運を高めていくことが目標である。そのことを再確認し、調整役を多摩デポが担っていくべきだろう。次の一步を考えたい」と書いたように、一年の活動を通して、共同政策の必要性（の不在、未着手）が見えてきたのではないか。この課題にどう切り込んでいくか難しいが、課題ははっきりしてきたように思われます。
- ・少しずつ会員が減り、特に現役職員の会員が稀になっている。新会員の加入や現役職員の協力者の獲得、図書館長層との連携などの課題には宿題が残った。
- ・丁寧な点検、議案提案はこれからですが、こうした一年だったのではないか。まもなく年度末を迎えるが、こういう見通しでよいか。

【討議】

- ・報告されたような認識でよい。その方向でまとめてほしい。まだ見学会やライブラリアン講座の修了式などがあるので、それらも含めて事業報告にまとめていただきたい。

(7) 第7号議案 2024年度通常総会の提案について

【報告】

- ・今年度の活動を振り返り、それらを元に来年度の事業方針や計画を検討して、総会で会員に提案していかなければならない。今年度の丁寧な総括も、来年度の具体的な提案も今日はまだ用意がないが、3月5日には事務局会議を開き、早急に理事会で検討してもらおう提案を準備したい。そのため3月、4月には理事会を続けて開き、議案書を確定していきたいので、よろしくお願ひしたい。
- ・総会の会場を確保した。5月18日（土）午後1時～5時、東京都公文書館研修室（定員60人）。今年度の総会に使った、調布市のたづくりの会場は、土日は既に予約が入り、都公文書館も5月半ば以降の週末はこの日しか空いてなかった。この日程と会場で総会を開くことを承認していただきたい。
- ・総会記念講演会は、田中久徳氏（前国立国会図書館副館長）。講演のテーマは、国立国会図書館の立場から見た、今後の公共図書館の活動への期待やアドバイス、公共図書館の共同保存についてお考えなどを話してもらうのはどうか？田中氏にはライブラリアン講座の講師をしていただいている。

【討議】

- ・議案書の案は3月の事務局会議で詰めてもらい、提案されたように3月、4月に続けて理事会を開催して、そこで決めていくということでよいか。
- ・そのように進めましょう。
- ・記念講演会は、前日も国立国会図書館の職員に話をしてもらった。前回は現職の方だったが、今回は視点を変えて退職された方。田中氏はライブラリアン講座の講師としても

積極的に協力していただいたこともある。このことについてはいかがか。

- ・最新の「LRG」46号の記事「未来の図書館を創る国立国会図書館の現場」では、田中氏を支えてきた福林氏や小澤氏が出ている。福林氏や小澤氏も可能性はあるのでは。いわゆる「長尾構想」は、国立国会図書館の職員達は以前から考えていたが、長尾氏が館長になり、さらに力がついたような流れだと見ている。基本的には、国会図書館の動きは資料保存では大事な要素なので、みんなで認識しておくのは重要なことかと思う。
- ・国会図書館の事業の説明というより、国会図書館の方は公共図書館をどう見てるかとか、公共図書館にどういう期待やアドバイスがあるかというような話題。また、ライブラリアン講座の講義をして、公共図書館の職員にも触れたわけだが、講義してどんなことが面白かったか、多摩デポの活動に興味を持たれたということなので、国会図書館の収集・保存や蔵書デジタル化の中で、公共図書館はどうあるべきか、期待とアドバイスのようなことを話してもらえればいいのか。
- ・田中氏に、上記のような内容で、講演を進めてもらおう。

(8) その他・情報交換

- ・「図書館資料の里親探し」について、調布市立図書館から提供される全集の依頼が2件あり、1件は成立。既に、配達を終えた。2件目は本日が申込みの締切日である。
 - ① 「宮武外骨著作集」全8巻 河出書房新社 1986～1992)
 - ② 「柳田国男研究資料集成」第I期 1～10巻・別巻1(全11冊) 日本図書センター 1986)
- ・①は、東久留米市に届け済。②は、全巻揃いでほしいと手を挙げたのが東久留米市だけなので、さらにここになる予定。
- ・「県域単位の共同保存の取組状況の全国の調査」
- ・昨年度に続いて、事務局員（鬼倉）が全国の都道府県立図書館のホームページに掲載された情報を詳しく調べ、県立図書館の共同保存の取組状況の調査を行っている。現在清書中だが、1回目の調査から共同保存が進んでいるとはなかなか言えないようだ。検討を止めてしまった（らしい）県、地域資料だけの共同保存というふうに限定したように見える県もあり、共同保存の課題を出している図書館は多いが、実態は進んでいない。中間報告で、次の『多摩デポ通信』に載せるべく進めている。

【多摩デポ関係記事】

- ・特になし

【共同保存図書館関連論文、記事】

- ・特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 3月上旬（未定）午後8時より、（Zoom会議）
- ★ 事務局会議(2023年度第13回) 3月5日（火）午後8時より、（Zoom会議）
- ★ 次回理事会 第8回理事会 3月20日（水）午後8時より、（Zoom会議）

議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、清田理事、齊藤理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2024年2月27日

議長

議事録署名人

議事録署名人